

様式3

令和6年度特色ある学校づくり推進事業報告書

学校番号（ 4 ） 学校名 豊田市立小清水小学校

1 テーマ

力いっぱい活動する子 — 心も体も元気いっぱい —

2 ねらい

本校は、地域・保護者との連携を重視し、講師・ボランティア・サポーターとして地域の力を教育活動へ積極的に導入して学校づくりをすすめている。本校の「特色ある学校づくり推進事業」では、本校の教育目標である「進んで学び合う子」「思いやりのある子」「からだをきたえる子」のうち、特に健やかな心と身体の育成に関係する部分に重点をおき進めていく。また、「WE LOVE とよた」の観点から、地域の協力資源を活用し、地域を身近に感じ、地域愛を育む子どもの育成に努める。

教育目標の実現のために、「A 学力向上」「B 心の教育」「C 健康・体力向上」「D 環境教育」「E 地域連携」の 5 つのプロジェクトがある。この 5 つのプロジェクトの中の具体的方策を推進することにより、健やかな心と身体の育成を実現していく。

- ・心身ともに健やかな子どもの育成 A B C D
- ・異年齢交流活動による子どもの社会性の育成 E
- ・地域人材の活用と家庭・地域との連携 D E

3 活動内容

(1) 心の教育プロジェクト

学校図書館司書の活用による図書館教育の充実

- ・低学年図書室「ふたば」、高学年図書室「本の森」の活用
- ・ダンボの会（読み聞かせサークル）との連携
- ・年3回「図書館祭り」の計画、実施
- ・ウチ読活動の実施
- ・国語科、社会科、総合的な学習等における調べ学習の支援
- ・国語科の学習と関連させた読書指導の充実

(2) 健康・体力プロジェクト

①食に関する指導の実践

- ・学校保健委員会において専門家による「食に関するコース別学習」(5年)

②なわとび記録会の実施

- ・個人選択種目、共通種目（前跳び、8 の字跳び）を行う。

(3) 環境教育プロジェクト

校内整備員の活用

- ・メイン花壇周辺や運動場等の環境整備

愛知県樹木更新事業と連携したじゃぶじやぶ池の再生プロジェクトの実施

- ・じゃぶじやぶ池の樹木剪定、伐採された樹木を使った教室ネームプレートの作成、アジサイの植樹

(4) 地域連携プロジェクト

①異学年交流活動

- ・全学年の縦割り活動…わくわくタイムにおける異学年との集団遊び
- ・宮口こども園、淨光こども園の5歳児と1年生との交流

②地域講師の活用

- ・豆腐作り体験（3年）
- ・宮口神社「棒の手、巫女舞」の実演とお話（4年）
- ・総合的な学習の時間において豊田高専連携したSTEAM教育（環境・防災）の実施（4年）

③ボランティアによるサポート

町たんけんのサポート（2年）昔あそび体験授業（1年）

運動場等の草刈り

図書館の本の整備

登下校中の見守りのボランティア

④学校サポーターによる学校生活への適応支援（1年、特別支援学級）

- ・1年を通じて1年生や特別支援学級において、給食における配膳や片付けの支援、清掃時における掃除道具の使い方や掃除の仕方の支援、休み時間（遊び）における室内での過ごし方等の支援

4 成果と課題

(1) 成果

①補助員を配置したことによる成果

・学校図書館司書

本校は、低・高2つの図書室を使用しているため、学校図書館司書の標準配置に加えて本事業でも配置を行っている。子どもたちの興味関心をひくような配架、季節ごとに変わる掲示、本に関するクイズやおみくじ引きなど児童が来訪するのが楽しみになるような工夫を行った。また、年に3回図書館祭りを開いたり、多読賞の表彰を年間通して行ったりした。

学校図書館司書が週当たり2日配置されていることで、上記のような取組ができ、

それにより本に親しむ子どもたちの姿が見られた。令和7年1月末現在の年間平均貸出冊数は1人当たり42.3冊である。学校図書館司書の配置のおかげで、子どもたちが図書に親しんでいるといえる。

・校内整備員

本校は校地が広いため、樹木やその周辺の整備、運動場の草取りに非常に時間がかかる。年に2回保護者の方による半日奉仕活動で草刈りをしていただいているが、十分とは言えない。校内整備員の活用により、メイン花壇付近や運動場とその周辺に茂っていた雑草を手際よく刈り、整備を進めていただいたことで、子どもたちが安全に気持ちよく活動できるようになった。

②異年齢交流活動による子どもの社会性の育成

全校縦割り活動「わくわくタイム」では、低学年の気持ちを考えて遊びを工夫する高学年の姿や、班活動を楽しみにする低学年の姿があり、人間関係の広がりが見られた。

また、淨光こども園、宮口こども園の5歳児と1年生の交流を行った。小学校入学前に、教室で1年生と共に活動したり、遊具で遊んだりすることで小学校入学を楽しみに思う活動になったのではないかと思う。また、1年生にとっても4月からのお兄さん・お姉さんとしての自覚を生む機会となった。

③地域人材の活用

地域学校共働本部と連携したことで、児童は地域の方から学ぶ機会が増えた。4年生は、棒の手や巫女舞の演技を見たり、槍や扇子などの実物に触れたりすることで関心が高まり、地域にあるものを大切にしていきたいという思いを児童がもつことができた。

また、地域人材の活用として3年生は豆腐店による豆腐づくりの授業を通して、大豆から豆腐になる過程を体験をもって学ぶことができた。

そして、4年生は総合的な学習の時間において豊田高専と連携したSTEAM教育を行った。学区を流れる逢妻女川を通して環境や防災について考えた。また、講師による講演や学生とともに実験・検証を行うことで、より専門的な学びにつながった。

④学校サポーターによる学校生活への適応支援

学校サポーターによる1年生への支援により、給食準備や片付け、清掃方法、休み時間の過ごし方等についてのルールがよく分かり、約束を守ってできるようになつた。特別支援学級においては、より個々への支援を行うことができた。

(2) 課題

地域人材を有効活用するために、年間指導計画と照らし合わせてどの授業で地域

講師を依頼すると児童にとって実のある学習活動となるのか見通しをもちたい。地域学校協働本部のコーディネーターと協力し、児童の教育活動を有意義なものにしていくたい。

5 保護者・地域への情報発信の取組実績

- ・令和6年度小清水小学校経営プラン「小清水プラン」に事業のねらいや活動内容を掲載し、全校児童の保護者、地域関係者に配付した。
- ・随時学校ホームページを更新し各学年の取組をタイムリーに紹介した。
- ・保護者アンケートによる評価において、約 83%の保護者が特色ある学校づくり推進事業における取組を評価している。